

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870200938		
法人名	株式会社 東海荘		
事業所名	グループホーム 東海荘ひだまり		
所在地	茨城県日立市鹿島町2-2-9 (電話) 0294-23-3511		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成21年1月11日	評価確定日	平成21年3月9日

## 【情報提供票より】(平成20年12月 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 人, 非常勤 3人, 常勤換算 人	

## (2)建物概要

建物構造	RC 造り		
	4 階建ての	1 階 ~	3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500円	

## (4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 76.7 歳	最低 56 歳	最高 94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	日立整形外科医院 日精歯科医院 いばらぎ診療所
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の中心部にあるホームで、駅や商業施設・公共施設からも近い。管理者は長年この地域に住んでいて地域の人たちとの交流も活発である。利用者は近隣の公園や商店街に外出しやすい環境であり、家族が面会に訪れた際にも頻りに外出している。家族でホームの運営からケアの提供に取り組んでおり、利用者の笑顔も多く、ほのぼのとした雰囲気を持ったグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題に対し、運営推進会議やスタッフミーティングでテーマとして取り上げ、具体的な改善案を討議し、取り組んでいる。介護計画の作成・見直しについては、書式を改め、職員全員で意見交換できるカンファレンスを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、改善に向けて取り組んでいる状況は確認できたが、更に全職員で自己評価を行い、サービス向上に努めることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、事前に検討事項や懸案事項を提示し、その経過を報告している。参加者は家族会、町内会長、民生員、行政、近隣施設の方で、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に現在の状況をスタッフから報告している。緊急連絡先も把握し、対応できている。定期的に発行しているひだまりよりは家族に郵送、金銭管理は、出納帳に記載し、毎月家族に確認していただいている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流を働きかけ、交流センターを利用した行事などを開催している。近隣住民との交流もあり、公園で一緒にゲートボールを行うこともある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	市街地にあるという立地条件を活かし、事業所と地域の関係性を大切にしたい独自の理念を全職員で確認しあっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで理念について話し合い、実際のケアにつながる話し合いを持っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流を働きかけ、交流センターを利用した行事などを開催している。近隣住民との交流もあり、公園で一緒にゲートボールを行うこともある。	○	行政との連携を今後も継続し、学校行事などの参加が実現できるよう取り組みを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、改善に向けて取り組んでいる。	○	評価は職員が全員で取り組むことで実施した際の効果も大きいことから、ユニット単位で、全職員が自己評価を行い、サービス向上に努めることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事前に検討事項や懸案事項を提示し、その経過を報告している。参加者は家族会、町内会長、民生員、行政、近隣施設の方で、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。		

茨城県 グループホーム東海荘ひだまり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	身寄りの無い方、生活保護者の受け入れもあり、行政との連携はできている。小・中学校の体験学習の受け入れも可能で、働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に現在の状況をスタッフから報告している。緊急連絡先も把握し、対応できている。定期的に発行しているひだまりたよりは家族に郵送、金銭管理は、出納帳に記載し、毎月家族に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に利用者の状況を報告しながら、信頼関係を築いているので直接意見、要望を聞くことが多いが、意見箱の設置もされている。		入居契約書・重要事項説明書等に苦情窓口の担当者・第三者機関を明示することが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職する際、試用期間を設け適性を見極めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加している。研修内容は全職員が共有できるように、資料を回覧している。今後の計画として、業者を招いての講習も予定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設と交流を持ち、情報交換をしている。県グループホーム連絡協議会に加盟、社会福祉協議会の懇談会参加などで交流の場をつくるようにしている。	○	職員から他施設への見学を希望している声もあり、交流の場・意見交換の場として実現に向け、取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や見学の体制が整っていて、場の雰囲気に徐々に馴染める工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの残存能力を把握し、できることを一緒に行ったり、生活の中での知恵を教えてもらいながら日々生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人記録や、ケアチェック表に情報を記載し、共有している。日々のかかわりの中で声かけを行い、思いや意向に変化のあった場合は記録に記載し、アプローチを丁寧に行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時の情報と、職員からの気づきを介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿った個々のケアチェック表があり、遂行状況が確認できる。状態の変化や1回/月のカンファレンスで見直しを行い、本人・家族の要望に応じる取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している。理美容などの利用もできるよう対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅専門の24時間往診可能な医療機関と連携し、本人・家族の同意も得ている。受診結果については職員の看護師が立会い、情報を共有し家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書による説明を入所時に行い、対応の方針を確認している。状態の変化があるごとに家族や本人の思いに添ったケアプランの見直しを行い支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報使用同意書を取り交わし、プライバシーの保護に努めている。接遇の勉強会を開催し、排泄の介助などにも配慮した取り組みを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課優先ではなく、一人ひとりのペースを尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒にメニューを考えたり、買い物に行き、楽しみながら食事を一日の大切な活動のひとつにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。入浴を嫌がる利用者には、声かけや入浴剤の利用など工夫して入浴を楽しめる支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼んだり、趣味を行えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけではなく、なじみの喫茶店などに自由に出かけられる支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したい思いを言動から察知し、さりげなく声掛けをし、一緒についていくようにしている。利用者一人ひとりの外出の傾向性も職員は把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、防災訓練・救命講習を行っている。備蓄品も確保されている。マニュアルは整備されて職員に避難経路・避難場所が周知されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華やかな装飾は無く季節感あるさりげない工夫をしている。共用の居間にソファを置き、居心地良く過ごしている様子がうかがえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物をそろえ、個々に合わせた個性のある安心して過ごせる居室となっている。イベントなどの写真が掲示されて、家族が訪問したときの話題づくりになる配慮がある。		